広報つるが　令和２年９月号
No.943（令和２年８月11日発行）

つるがで輝くあの人を紹介

まちのキラリびと

今でも被災地の方との
温かい交流が続いています。

とんとんキッズプロジェクト

災害支援を通じて、敦賀のパワーを実感!!

とんとんキッズプロジェクトは、東日本大震災で避難してきた子ども達のために、何かできないかと市民団体やＮＰＯ法人などが集まり、２０１１年３月に立ち上がりました。

最初は、手探り状態でしたが、会員からの声掛けにより、たくさんの方が協力してくださいました。「何か力になりたい。」という思いはありながら、「一人で何ができるだろう。」と悩んでいた方が多かったようです。

当初は、募金、物資の提供、交流会、相談窓口、バザー、現地訪問などを通じて、被災された方と交流したり、状況をＨＰなどで情報発信したりといった活動を行いました。今でも、定期的に現地訪問や募金活動を続けるとともに、各地で発災した際にも、募金活動などを積極的に行っています。

プロジェクトも、被災地と交流を続けて、はや10年目となりました。活動を通し、「人とのつながり」の重要性を強く感じています。一人でできることは限られていますが、みんなの気持ちが集まれば、大きな困難にも立ち向かえると改めて認識させられました。

この活動の輪の広がりが継続していくように、次の世代にバトンをつなげていきたいと思います。

まちの宝を発見！

つるが歴史遺産

『おくのほそ道』素龍清書本の復刻版は文化振興課と博物館で販売中

案内人
学芸員　藤田裕介

基本情報

種別：名勝「おくのほそ道の風景地」（平成28年10月３日指定）
所在地：曙町

おくのほそ道の風景地　けいの明神
（氣比神宮境内）

芭蕉が詠んだ敦賀の情景

名勝「おくのほそ道の風景地」は、松尾芭蕉と弟子の河合曾良（そら）が『おくのほそ道』や『曾良旅日記』に記録した優れた風景を伝える場所を指定したもので、全国で25か所が選ばれています。敦賀では、『おくのほそ道』の「けいの明神に夜参す」という記述から氣比神宮境内の全域が指定されました。

それでは、芭蕉は氣比神宮をどのように表現したのか、『おくのほそ道』を紐解いてみましょう。芭蕉は旧暦の元禄２年（１６８９年）８月14日夕方、旧友神戸（かんべ）等栽（とうさい）の案内で福井から敦賀に入り、唐仁橋町（現相生町）の出雲屋弥市郎（いづもやいちろう）の宿を訪れます。ここで宿の主人に勧められ、晴夜の「けいの明神」を参拝します。この時の様子を「月清し 遊行のもてる 砂の上」と詠み、遊行上人が整備した参道の白砂と月光の美しさを句で表現しました。翌15日は芭蕉が楽しみにしていた中秋の名月に当たる日でしたが、宿主から聞いていた「越路の習ひ、猶明夜の陰晴はかりがたし」という言葉の通りの雨であったため、名月を見ることが叶わず「名月や 北国日和 定なき」との句を残し、翌日に色ヶ浜へと旅立ちました。芭蕉が敦賀に滞在したのは数日だけでしたが、敦賀の様々な情景を句に残しました。

さて、今年の中秋の名月は10月１日とされています。芭蕉が見ることのできなかった名月を、夜の氣比神宮に足を運んで鑑賞してはいかがでしょうか。

広報担当者のつぶやき

３年半後に迫った北陸新幹線の敦賀開業。工事も着々と進んでおり、市民の皆さんにもより身近に感じてもらうため、今月号から５回連続で特集を企画しています。貫通したばかりのトンネル内部に入ったり、高架橋の架設工事に立ち会ったりと、貴重な経験もさせていただいており、少しでも分かりやすくお届けしたいと思います。（K）

先日、職場での健康診断がありました。これまでの人生、太りにくい体質だと思って生きてきましたが、30代を前にしてお腹周りに変化が…。腹囲をはかるとき、苦し紛れに少しお腹を凹ませてみましたが、昨年比６cm増。怠けてしまっていたプランクを今度こそ続けようと思います。（M）

発行：敦賀市　編集：秘書広報課
印刷：若越印刷株式会社

〒914-8501 福井県敦賀市中央町２丁目１番１号
TEL 0770-22-8112／FAX 0770-22-8170
E-mail kouhou@ton21.ne.jp

●広報つるが　毎月第2火曜日発行
●行政チャンネル（RCN 091ch）
毎日６時～24時放映（週３回入替）
●市政広報ラジオ（敦賀FM放送 77.9MHz）
平日４分番組・12回放送
●HP https://www.city.tsuruga.lg.jp/